

- 【 事 務 局 】 1 開会
2 あいさつ
3 委員紹介
4 議事
 (1) 第4次カモシカ管理計画（案）について
 (2) その他
- 【 事 務 局 】 (資料により説明)
- 【 青 井 委 員 長 】 それでは、カモシカの生息状況のところでは前半の質疑としたいと思います。ただいまの説明について何か質問等ありますでしょうか。
- 【 堀 野 委 員 】 表 10 の捕獲申請数について、最近では申請が少ないようですが、これは何か理由があるのでしょうか。
- 【 事 務 局 】 被害の大きい市町村の担当者に話を聞いたところ、市町村実施計画をたてるにあたり、被害防除対策の状況把握や生息密度調査を行う必要があるため、ハードルが高いということがあります。また、シカの被害のほうで手一杯で、カモシカのほうには手が回らないということでした。近年はカモシカによる農業被害などの苦情はほとんどないそうです。
- 【 堀 野 委 員 】 わかりました。表 4、表 5 で実施された生息密度調査の方法を記載した方がよいと思います。どのような方法で行っているのでしょうか。
- 【 事 務 局 】 追い出し調査と痕跡調査を行っています。
- 【 堀 野 委 員 】 2 つの方法を組み合わせで行っているのであれば、やはり方法を明記する必要があると思います。
- 【 事 務 局 】 調査方法について、追加させていただきます。
- 【 青 井 委 員 長 】 口頭では説明がありましたが、生息密度調査の結果、この 10 年間で減少しておりますので、これは文章の方にも減少傾向であると記載した方がよいと思います。
- 【 事 務 局 】 そのように記載させていただきます。
- 【 青 井 委 員 長 】 また、表 8 の林業被害について、実損面積は 1.07ha となっているのに対して、下の図を見るとかなり多くの市町村で被害が発生しているようですが、この数値は間違いないのでしょうか。
- 【 事 務 局 】 多くの市町村で被害はありますが、いずれも 0.1ha 程度と小規模なので、このような数値になっております。
- 【 青 井 委 員 長 】 それでは、この数値で間違いないということですね。その他に何かありますでしょうか。
- 【 藤 澤 委 員 】 表 8 ではカモシカの生息密度が減少していますが、これはカモシカが減っているということなのでしょうか。
- 【 事 務 局 】 生息密度は確かに減少していますが、カモシカの数が減っているかという点については不明です。分布域が拡大している可能性もありますので、県全体の生息数についてはこのデータからは正確なことはわかりません。

- 【 藤 澤 委 員 】 猟友会では教育委員会からの委託を受けてカモシカの死亡個体の処理や報告をしておりますが、担当から聞いた話ですと、死亡個体は平成 26 年、27 年と増えてきたようです。そこでカモシカの数が増えてきたのかと思っていたのですが、今年に入るとそうでもないようで、判断しかねているところです。
- 【 事 務 局 】 生息密度調査の地点が決められているのですが、その調査地点での生息密度が減少しているということはあると思います。滅失届出数や死亡個体の発見場所というデータを見ていただくと、死亡個体の発見頻度が見られるので、調査地点ではないところにカモシカが現れているという可能性はあると思います。カモシカの数が増えたか減ったかということではなく、里に出没する頻度が増えたため、死亡個体の処理件数が増えたということは可能性として考えられます。
- 【 青 井 委 員 長 】 死亡数が最近増えている原因その他で、辻本先生の方で何か思い当たることはございませんか。
- 【 辻 本 委 員 】 すべてを解剖検査している訳ではありませんので正確なところはわかりませんが、教育委員会との情報のやり取りで、死亡個体が増えたということは聞きますが、カモシカの数が増えたということではないと聞いております。また、盛岡での情報ですが、過去にカモシカがよくはねられていた国道で今はシカがはねられているということも聞きます。数年前には岩手大学にカモシカが出たような報告もされております。いずれにせよ、はっきりと調査したものではありませんが、実感として、カモシカが里におりてきている傾向はあるかと思えます。
- 【 青 井 委 員 長 】 他に何かありますでしょうか。無いようですので、生息状況については以上にしたいと思えます。それでは、後半の計画の概要について御説明をお願いします。
- 【 事 務 局 】 (事務局より説明)
- 【 辻 本 委 員 】 ここ数年捕獲されていないということで、防護網の設置などの対策が功を奏しているということであればよいことだと思いますが、先程の説明にもあったように、市町村の実施計画を作るのが大変だということで、被害を許容しているのが実態なのではと思うのですが、そのあたりは実際のお話などは聞いていますでしょうか。
- 【 事 務 局 】 おっしゃるとおり、計画を作るにあたって、被害防除対策を継続しているのか、被害は本当にシカではなくカモシカなのか、といったことを調査しなければいけないので、その辺りがハードルとなっていることは市町村担当者からも聞いております。
- 【 辻 本 委 員 】 カモシカも被害を出しているかもしれないけど、計画を作るのが大変ですし、シカかも知れないからほっておこうという意識なのか、シカの被害防除もすることで、カモシカの被害防除もなされるという意識なのかそのどちら

なのかと言うことが気になるところです。

【事務局】 元々はシカの被害防止のために防護網の設置などを行っていたのが、結果的にカモシカの対策にも繋がっていたというようなケースはあるそうです。

【及川委員】 17 ページで「生息環境管理の推進にあたっては農林担当部局が主体となつて行う」と書いてありますが、これは県の農林担当部局なのでしょうか。

【事務局】 そのように考えています。

【及川委員】 いわたの森林づくり県民税や緑の回廊と例示されていまして、緑の回廊については動物が異動することによる生息環境管理、また、いわたの森林税は手入れ不足の針葉樹を広葉樹林化するという点で生物の多様性と言う点で関わりのある部分があります。しかし、適切な生息環境の管理を農林担当部局が主体として進めるといことは違和感があります。林業サイドの森づくりの部分で生物多様性には関わりを持つのですが、山づくりを行うことが主目的である農林部局で生息環境管理を主体となつて進めるといのは少し違うのではないかと思います。

環境担当部局の方で、「生息環境を作り出すことは必要であり、その中の事業として、このようなものがあります」といったような調整をして進めるべきではないかと思います。

【事務局】 いただいた意見のとおりだと思いますので、書き方について検討させていただきます。

【青井委員長】 要するに、農林部局が主担当ではなく、環境部局が主体となつて連携して行うということですね。その他何かありますかでしょうか。

【藤澤委員】 現在、カモシカは有害駆除としては行われていないわけですね。

【事務局】 はい、行われておりません。

【青井委員長】 前半では生息密度が低下している状況が書かれているのに対し、後半では第 3 次計画とほとんど変わらない内容になっていますね。被害は減って来ているし、生息密度も減少傾向であるということで、次期計画はこのままでもよいかも知れませんが、その次の計画には内容を考える必要があると思います。例えば、第一種の保護の対策に切り替えるということも考えなければいけないと思います。全国でもシカの多い地域ではカモシカが減少傾向にあると言われていています。岩手県でも、カモシカについて保護的な色合いを出していくことについて、議論していく必要があると思います。

【事務局】 今後の生息密度調査や被害の推移を踏まえながら、検討委員会で皆様の意見を伺いつつ、次回以降の計画の方向性について検討したいと思います。

【青井委員長】 その他にありますでしょうか。それでは今いただいた意見をもとに、事務局で計画案の修正等お願いします。次に、議題の(2)その他について、事務局から何かありますかでしょうか。

【事務局】 協議事項ではありませんが、計画作成に係る今後のスケジュールについて説明します。まず、本検討会の意見を基に修正した案を 9 月下旬に岩手県環

平成 28 年度カモシカ保護管理検討委員会会議録

平成 28 年 8 月 30 日開催

境審議会自然・鳥獣部会にて審議いただきます。その後、審議会の意見を踏まえて案を修正し、12 月～1 月にかけてパブリックコメントを実施します。さらに、年度末に環境審議会自然・鳥獣部会にてパブリックコメント等の意見を反映させた最終案を諮りまして、年度内に県報告示、環境省への報告というスケジュールで進めたいと思います。

【青井委員長】 はい、ありがとうございます。その他何かありますでしょうか。それでは本日の議事はこれで終わりたいと思います。後は事務局にお返しいたします。

【事務局】 青井委員長、議事進行ありがとうございました。本日は、委員の皆様には忙しい中お集まりいただき、ありがとうございました。それでは、これもちまして本日の会議を終了します。